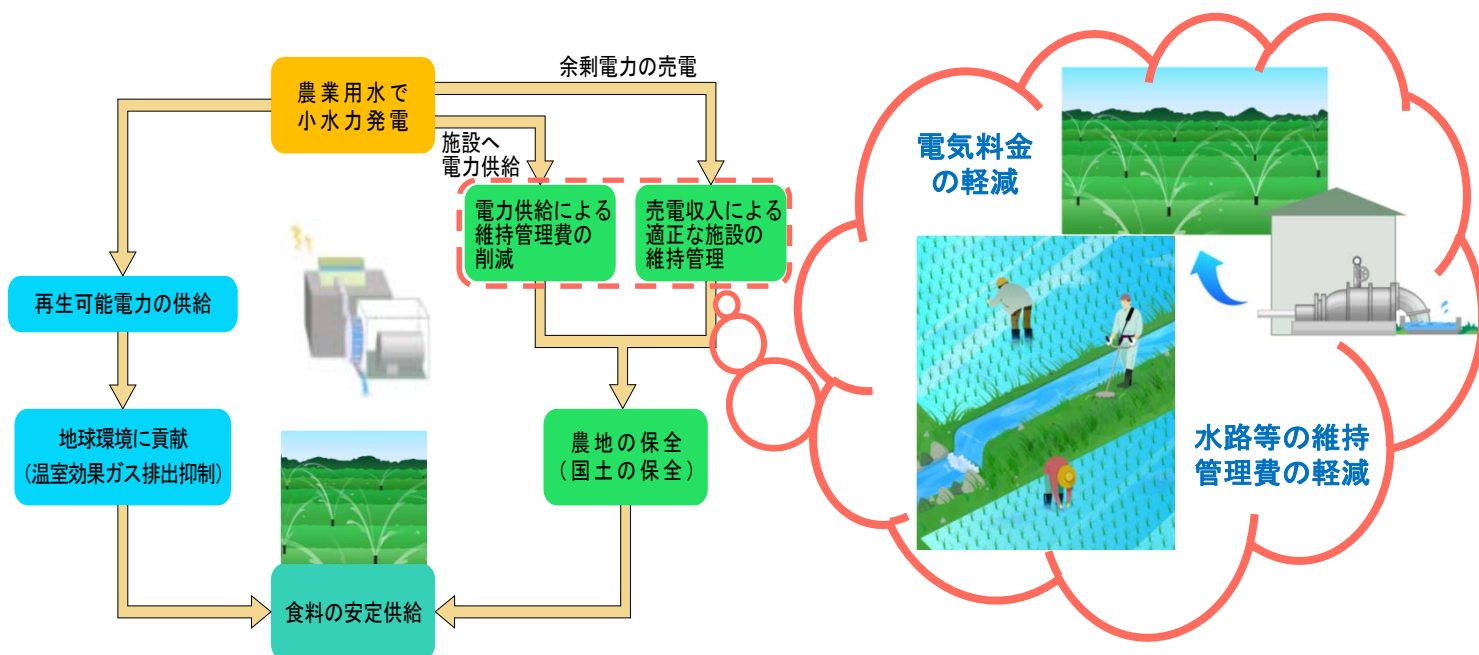


農業用水を活用した 小水力発電による電力の地産地消

- 中山間地域が多い大分県には、水路などの農業水利施設にある未利用の落差など小水力発電施設の設置が可能な地点が多く存在。
- 地域で発生させた電力を地域で消費する「電力の地産地消」をテーマとし、地域の資源を活用した小水力発電を積極的に推進。
- 土地改良区内で5施設が稼働、売電収益は主に農業水利施設の維持管理費に活用。



大分県内では、土地改良区5箇所の水力発電所が稼働



富士緒井路第一発電所
(富士緒井路土地改良区)
最大発電出力=380(kW)
運転開始年: 1914年
水車形式: 横軸フランシス式



富士緒井路第二発電所
(富士緒井路土地改良区)
最大発電出力=1,500(kW)
運転開始年: 1984年
水車形式: 横軸フランシス式



大野原発電所
(大野町土地改良区)
最大発電出力=260(kW)
運転開始年: 1987年
水車形式: 2射形ペルトン式



長谷緒井路発電所
(長谷緒井路土地改良区)
最大発電出力=1,300(kW)
運転開始年: 1991年
水車形式: 横軸フランシス式



城原井路発電所
(城原井路土地改良区)
最大発電出力=25(kW)
運転開始年: 2010年
水車形式: プロペラ式

5施設での年間発電電力量は、20,278MWh
一般家庭の年間消費電力量に換算すると4,828世帯分

二酸化炭素削減
量は11,254t

農業用水による小水力発電は、
農業水利施設の維持管理費削減と農地保全に効果を発揮